

第 25 回大分 NST 研究会のご報告とお礼

平成 29 年 6 月 10 日土曜日にビーコンプラザ国際会議場にて第 25 回大分 NST 研究会が開催されました。

はじめに、井野辺病院の石松先生、甲斐先生、アルメイダ病院の岩坂先生、清松先生の座長のもと、一般演題 8 題の発表を頂きました。どの発表も皆様の施設で熱心に取り組まれた結果だけあって、「なるほど」と納得させられる内容でした。また、今回は株式会社大塚製薬工場からも演題をいただきました。普段は共催として裏方で会の運営にご協力いただいておりますが、災害時の社会活動をテーマにお話をいただけるということで、ぜひにとお願いした次第です。

特別企画では、大分赤十字病院、南海医療センター、みえ病院から「災害時の NST の役割」と題した発表をしていただきました。南海医療センター 成松先生、みえ病院 安部先生には、南海トラフ地震に向けての準備や実際に熊本地震での活動で気づかれたことなど、非常にためになる内容を発表していただきました。準備期間も発表時間も短くて、申し訳ありませんでした。また、大分赤十字病院の本村先生からは各病院の災害への準備状況をアンケートのまとめという形で発表していただきました。事前にアンケートにご協力頂きました皆様ありがとうございました。

特別講演では、九州中央病院 渡辺啓子先生に「チームによる実践的栄養管理～院内から地域への発信～」と題してご発表頂きました。渡辺先生には、はじめは災害時の日本栄養士会の活動（JDA-DAT）についてのお話をお願いしたのですが、それ以外にも、NST 外来や介護施設への訪問、NST ラボなど NST 活動を院内から地域に広げる活動をされているとお聞きして、それはちょうど皆様の興味のあるところと思いましたので、あわせてお話いただけるようお願いした次第です。

皆様も常日頃から悩まれていることと思いますが、現在の医療において、院内の活動だけでは限界があります。今回の講演では、これを変えていくために活動されている事がよくわかり、先生の行動力に感服するとともに、勇気づけられた気がしました。ちょうど、世話人会でも WAVES Japan の活動について田崎先生からご紹介のあったところであり（詳しくは <http://wavesjapan.com/> を参照ください）、時宜を得たものと感じた次第です。

今回の研究会には 283 名ものご参加をいただきました。（別府開催で 200 人を越えたのは初めてだそうです）。また、多くの方から「内容が充実していて、とても聴き応えがあった」との感想をいただきました。盛会に終わりましたことは、世話人として冥利に尽きます。参加して下さった皆様に深く感謝申し上げます。（協力して下さった、大分赤十字病院の本村先生や NST 委員会のみなさまにも感謝しています。おかげで大きなトラブルなく、仕事を全うできました。）

今後も皆様が NST 活動を通じて社会と関わり、貢献していただけること祈念しつつ、お礼の言葉とさせていただきます。ありがとうございました。

第 25 回大分 NST 研究会 当番世話人 大分赤十字病院 岡本正博